

根づかせよう安全文化

みんなの努力と 活かすシステム

解説

- 医療において患者を最優先させることは、古くから医療人の

基本的な行動規範とされてきました。

- 今日、患者の安全は何よりもまず優先されるべきであることを再認識し、医療に安全文化を根づかせていくことが必要です。
- 医療における安全文化とは、医療に従事するすべての職員が、患者の安全を最優先に考え、その実現を目指す態度や考え方およびそれを可能にする組織のあり方といえるでしょう。
- なお、安全文化という言葉は、他の分野では「安全性に関する問題を最優先にし、その重要性に応じた配慮を行う組織や個人の特性や姿勢の総体」（国際原子力機関1991年）という意味で用いられています。
- 人は間違えることを前提として、システムを構築し機能させていくことが必要です。

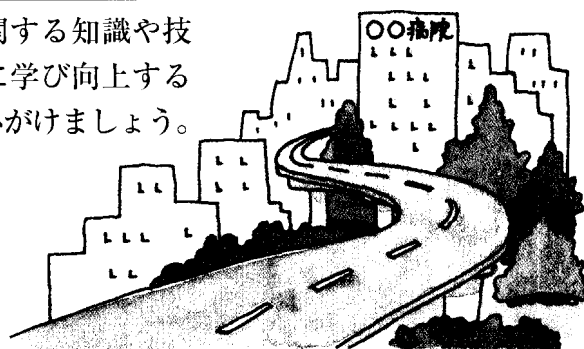
具体的な 取組に向けて

安全を最優先

- ▶すべての職員は、安全を最優先に考えて業務に取り組みましょう。

向上心をもつ

- ▶安全に関する知識や技術を常に学び向上することを心がけましょう。



体制づくり

- ▶管理者のリーダーシップの発揮、委員会やリスクマネジャーの設置、教育訓練の充実といった事故予防のための体制づくりに取り組みましょう。

フェイルセーフ

- ▶業務の流れを点検し、個人の間違いが重大な事故に結びつかないようにする「フェイルセーフ」のしくみの構築に努めましょう。

安全高める患者の参加 対話が深める 互いの理解

解説

- 医療は患者のために行うものです。その主役である患者が医療に参加することが重要です。
- このことは安全に医療を提供していくためにも大切です。
- 患者と職員との対話によって、医療内容に対する患者の理解がすすむとともに、相互の理解がより深まります。

具体的な 取組に向けて

十分な説明

- ▶医療内容について十分に説明しましょう。
- ▶日々の診療の場で、その内容や予定について説明しましょう。

患者との対話

- ▶一方的な説明ではなく、患者との対話を心がけましょう。



雰囲気づくり

- ▶患者が質問や考えを伝えやすい雰囲気をつくりあげましょう。

共有しよう 私の経験 活用しよう あなたの教訓

解説

- ミスが起こる要因はある程度共通していることから、その要因を明らかにし改善していく必要があります。
- 職員の経験を収集し、原因分析に基づいて改善策を導き出し、それを共有することが不可欠です。
- 効果的な安全対策を講じるためには、個人の責任を追究するのではなく、システムの問題ととらえ改善していく「問題解決型」の取組が必要です。
- 他産業の安全対策に関する知見を、医療における安全対策に活用することも有効です。

具体的な取組に向けて

報告システム

- ▶すべての職員は、積極的に報告システムに参加しましょう。

事例の分析

- ▶報告された事例の原因を分析しましょう。

学び・実践

- ▶得られた改善策は職員全員で学び、実践しましょう。



規則と手順 決めて 守って 見直して

解説

- 規則や手順は、現実的かつ合理的なものを、職員自らが考え、話し合いながら文書として作りあげることが必要です。さらにそれらは、必ず守らなければなりません。
- 問題点や不都合な点が見つかったときには躊躇なく改善することが必要です。その際、あらかじめ関係する部門同士がよく調整することが必要です。
- 規則や手順、各種用紙の書式などを統一することも、ミスを減らす上では大切です。

具体的な 取組に向けて

改善提案

- ▶必要などときには積極的に改善提案し、見直しましょう。

話し合い

- ▶見直しの際には関係者とよく話し合いましょう。

規則や手順の文書化

- ▶規則や手順を文書として整備し、遵守しましょう。



部門の壁を乗り越えて 意見かわせる 職場をつくろう

解説

- 医療においては多様な職種や部門が存在し、チームで

医療を行っています。

- 安全な医療の提供のためには、部門・職種の違いや職制上の関係を問わず、相互に意見を交わしあうことが重要です。
- 特にチーム内では、お互いが指摘し、協力しあえる関係にあることが不可欠といえます。
- 思い込みや過信は誰にでも起こりうるもので、自分では気がつきにくいものです。他人の目により互いに注意しあうことは、思い込みや過信の訂正にも有効です。
- なお、ひとりの患者に複数の施設がかかわる場合には、外部の組織とのコミュニケーションも重要です。

具体的な取組に向けて

率直な意見と謙虚な対応

- ▶気づいたらお互いに率直に意見を伝え、周りの意見には謙虚に耳を傾けましょう。

オープンな職場

- ▶上司や先輩から率先してオープンな職場づくりを心がけましょう。

他施設との連携

- ▶関係する他施設等とのコミュニケーションにも努めましょう。



先の危険を考えて 要点おさえて しっかり確認

解説

- 確認は、医療の安全を確保するために最も重要な行為です。
- ただし、漫然と確認するのではなく、業務分析を行い、確認すべき点を明らかにした上で、要点を押さえて行うことが重要です。
- 正しい知識を学び、的確な患者の観察や医療内容の理解により起こりうる危険を見通すことで、事故を未然に防ぐことができます。
- 「いつもと違う」と感じた場合には、危険が潜んでいることがあるため注意が必要です。

具体的な 取組に向けて

確認

- ▶決められた確認をしっかり行いましょう。

正しい知識

- ▶早期に危険を見つけるために、正しい知識を身につけましょう。

キャッチする感性

- ▶「何か変」と感じる感性を大切にしましょう。

